

◆ 家教授ら3人に仁科記念賞

仁科記念財団は13日、物理学で優れた業績を上げた研究者に贈る第54回仁科記念賞を、国立天文台の家正則教授(59)、東京大学の上田正仁教授(45)(冷却原子気体)と早野龍五教授(56)(原子物理)の3人に授与すると発表した。授賞式は12月5日に行われる。

◆ 家教授らに仁科記念賞

仁科記念財団(山崎敏光理事長)は13日、物理学で優れた業績をあげた研究者を対象にした今年度の「仁科記念賞」を、国立天文台の家正則教授(59)ら3人に贈ると発表した。家氏の授賞理由は「す

ばる望遠鏡による初期宇宙の探査」。ほかに上田正仁・東京大教授(45)が「引力相互作用する原子気体のボース・アインシュタイン凝縮の理論的研究」、早野龍五・東京大教授(56)が「反陽子ヘリウム原子の研究」の業績で選ばれた。授賞式は12月5日。

しんぶん 赤 旗

2008年11月14日(金曜日) 【社会・総合】 B版 (14)

3氏に仁科記念賞

仁科記念財団は13日、今年の仁科記念賞を家正則国立天文台教授(59)、上田正仁東京大大学院教授(45)、早野龍五東京大大学院教授(56)の3人に授与すると発表しました。授

賞式は12月5日、都内で行われます。

家教授は、すばる望遠鏡(米ハワイ島)の観測装置を設計。約百二十九億光年という観測史上最も遠い銀河を

発見しました。

上田教授は、極低温の世界で物質が固まり、まるで一つの粒子のように振る舞う「ボース・アインシュタイン凝縮」を理論的に考察。この状態が引力により崩壊する過程を明らかにしました。

早野教授は、通常のヘリウム原子核の周りを回る原子を反陽子に置き換えた「反陽子ヘリウム原子」を研究。構造などの解明に成功しました。